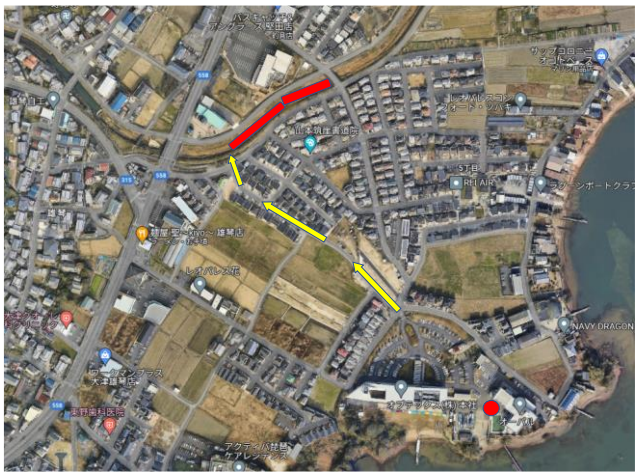
びわ湖トラスト親子環境学習講座　～湖岸調査～　報告書

認定 NPO 法人 びわ湖トラスト

実施日　：　2024 年 7 月 31 日（水）
後　援　：　大津市教育委員会
助　成　：　公益財団法人　平和堂財団
参加者　：　20 組　38 名（大人：18 名　・　子供：20 名）
スタッフ：　10 名（講師・ボランティアスタッフ含む）

行　程
9:00　受付開始
9:15　開校式
　　オリエンテーション
9:50　班分け
　　カヌー体験
　　生き物調査
12:30　閉校式



生き物調査の場所の雄琴川。黄色矢印は経路、赤は採取活動の場所。赤丸は集合場所の OPAL 社。

今回は大津市雄琴の OPAL 社に集合し、雄琴川で生き物調査を行い、カヌー体験も OPAL 社前の湖岸で行った。近畿大学准教授の亀甲武志先生と、ボランティアとして 6 名の学生さん達に参加していただいた。

参加者の集合の後、開校式とオリエンテーションを開いた。今年は大変に良い天気で、湖岸における魚介類のガサガサでの捕獲にはとても良い条件と思われたが、気温の上昇による熱中症への注意が必要と思われた。また、カヌー体験も快適にできるものと予想された。

開校式と全体的なオリエンテーションの後、全員が集まって写真の記念撮影を行った。

この後 2 班に分かれ、「カヌー体験」と「生き物調査」を約 1 時間ずつ交互に行った。カヌー体験は OPAL 社の広場にて、生き物調査は開校式と同じ場所にて、それぞれのグループが集合して説明がなされ、講座を開始した。

【生き物調査】

近畿大学農学部水産学科准教授の亀甲武志先生とその研究室に所属する大学院生と学部学生は胴付長靴の本格装備、参加者は水に濡れても問題のない長袖長ズボンや水着のレギンスなどを装備し、タモ（網）とバケツを子供１人１つずつ持って、住宅街を通って雄琴川へと向かった。

川辺に着くと、網を置いて草などに隠れている魚を足で追い込むという基本を習い、教えてもらった方法で水中や隠れている生き物をタモで採り始めた。足でタモへと追い込む要領で採るのがタモを壊さない正当なやり方である。逆にタモを力一杯動かして魚を追うとタモは簡単に壊れてしまう。ウォーターシューズなどで追い込み挑む。

今回の調査で採集されたのは、表に示したように魚類とエビ類が主体であった。

2024.7.31 雄琴川で採捕できた魚類、エビ類

和名	学名
アユ	*Plecoglossus altivelis altivelis*
トウヨシノボリ	*Rhinogobius* sp. OR
カムルチー	*Channa argus*
オオクチバス	*Micropterus salmoides*
カワムツ	*Candidia temminckii*
ウキゴリ	*Gymnogobius urotaenis*
スジエビ	*Palaemon paucidens*
テナガエビ	*Macrobrachium nipponense*
ヌマエビ	*Paratya compressa*
アメリカザリガニ	*Procambarus clarkii*

今年も例年のように、採取作業の終了を告げても名残惜しそうに渋々戻って来るのは、参加の児童だけでなく保護者の方もそうであり微笑ましい。

採集した生き物を透明容器に移しての説明会。容器の中の生き物を様々な方向から観察したり、疑問に思ったことを先生に質問しては説明を受け、理解を深めた。

持ち帰りの希望者には、採集した生き物はビニール袋に収容し、家に持ち帰ることができた。

今年も夏らしい天気に恵まれ、午前中の半日とはいえ気温が高く日差しも強く参加者の体調が案じられたが、熱中症や体調不良者が出ることはなく、無事に講座を完了することができた。

今回の参加者は、今回の体験を良いご縁として、これからも引き続き自身で生き物と関わって欲しい。琵琶湖とも直接間接に関わり、変化を観察し、問題などに気付いて欲しい。魚介類の生産量の減少やアオコなど、大きな問題が顕在化している。そのようななか琵琶湖について様々に想像を巡らせ、琵琶湖の望ましい姿などを考察して欲しいと願う。

【カヌー体験】

広場にて、ライフジャケットを着用し、熱中症対策のためプールに入ってからカヌー乗り場へと移動した。カヌー乗り場では、パドルの持ち方・漕ぎ方、足の置き方、ライフジャケットの装着方法の解説がなされた。カヌーは２人乗りや１人乗りがあり、取り扱いが違うし、座席の位置も確認も必要である。カヌーの取扱や操作について一通り習った後、カヌーを岸まで運び、次々と湖に漕ぎ出して行った。

幸いにも晴天に恵まれ、初めは少し苦労している様子もあったが徐々にカヌーが進むようになった。特に、２人乗りのカヌーでは声をかけながらタイミングを合わせて漕ぐ必要があり、タイミングがずれると蛇行してしまう。

ヨシが生い茂っている場所では、カヌーに乗ったままエリア内で自由に生き物探しをすることができた。

日向ぼっこをしているミシシッピアカミミガメを発見したが、近づきすぎて逃げてしまった。その他小魚やエビを観察できた。

途中、岸から沖に向かって風が吹く場面（通称：怖い風）もあったが、転覆事故もなく、カヌー教室を楽しむことが出来た。気温が高かったが、熱中症や体調不良者が出ることもなく、無事に終えることができた。
参加者各位においては、自然が時に人間の脅威となり得ることを忘れず最大限安全に配慮し、今後も自然環境について興味を持ち、積極的に自然に触れあって欲しいと思う。